

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 陽翠水	代表者	仲井培雄	法人・事業所の特徴	ケアマネ、介護士、看護師の各専門職が連携し、通い・泊り・訪問のサービスを柔軟に組み合わせることで中重度になっても在宅生活が継続できることを目指しています。また、通いでは外出や地域交流活動に力を入れ、訪問では安否確認から身体介護まで提供することで、自分らしく生活できることを支援いたします。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 コミケア緑が丘	管理者	菅原理絵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	5人	0人	9人	1人	3人	10人	0人	29人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	登録人数 25 人へ変更し、利用者の生活を支える専門職としての知識や意識を再度見直し取り組んでいくため、計画作成、訪問介護、接遇、感染での勉強会を定期的に開催し、ケアの振り返りと質の向上に取り組んでいく。	定期的に勉強会やミーティングを開催し、介護保険制度の基礎から学び取り組んできた1年だった。職員間での意見交換や連携も以前より自発的に行う職員が増え、ケアの提供の際にも意識の変化が見られていた。	毎年評価させてもらっているが、徐々に自分たちのものになっているのではないかと。	小規模多機能の事業と役割を職員全員が理解して運営すること。多職種連携と専門職としての学習を毎月実施し、質の向上に取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方、同法人内でも施設に入るきっかけを作ることによって施設を知ってもらい、みてもらえる取り組みを行う。引き続き感染対策予防に努めていく。	地域の方々に気軽に事業所に入ってもらえることは難しいと思っていたが、年末の餅つき大会で交流する雰囲気を感じることができた職員は多かった。	事業所に入りやすいという点では、子供 110 番はとても良い。建物に入ることに抵抗があるが、地域の子供たちとの交流等、社会福祉協議会と協力して何かできないか？年末の餅つき大会はとても良かった。昭和の時代を感じるもの、利用者が懐かしむことを今後の行事として取り入れてみてはどうか？今の子供たちが珍しく感じるもので交流すると良いと思う。ひな祭りや節句なども、段に飾られたお雛様を見たことがない子も多くいると思う。	餅つき大会のような大きな行事になると頻繁に実施することは難しいが、小さな行事、イベントを企画しながら機会を増やしていくことに取り組んでいきたい。感染については引き続き対策と予防に努めていきたい。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事を知り、情報共有の機会を得るための行動を職員全員で取り組んでいく。	年末に行った餅つき大会は多くの方と関わることができ、毎年続けて開催したい。地域への行事は週末に開催されることも多く出向くことは難しいが、関わり方は様々だと思うので、できることから職員で考えていきたい。	文化展に出展して頂きありがとうございました。ぜひ毎年出店して頂きたいです。少しずつ地域の行事にも参加してほしい。	大きな行事から小さなイベントまで様々な形でかかわりの機会を得られるよう工夫する。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>これまでは個人への企画が多かったが、今後は施設の企画や地域との関わりのための取組みを中心に実施していく。利用者が住む地域の民生児童委員の方との交流も積極的に行っていく。</p>	<p>コロナ禍にあり、変わらず個人の企画を中心に実施してきたが、今後は事業所としての外出企画を多く企画し、地域へ出向き、これまでの生活を思い出したり、また交流ができたやといったきっかけ作りにも取り組んでいきたい。</p>	<p>将棋や囲碁ができる利用者さんはいますか？子供たちが交流するきっかけにもなると思います。</p>	<p>利用者が地域に出向く取組みは今後も継続しながら、事業所としての外出企画も企画し、地域へ出向き、これまでの生活を思い出したり、また交流ができたやといったきっかけ作りにも取り組む。同法人内の共生型施設を利用している子供たちとの交流も感染状況を見ながら相談したい。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>小規模多機能という事業、またどのような方がどのような方法で利用されているのかを同法人内の専門職をはじめ、地域の方々にも知ってもらえるよう事例等を通して共有する。</p>	<p>小規模多機能の事例をいくつか紹介させていただき、どのような事業所で何をしているかを伝える機会を得ることができた。</p>	<p>小規模多機能という事業の特徴、柔軟に対応していることがとても分かりやすかった。事業所の紹介もしやすくなるので継続してほしい。</p>	<p>小規模多機能の紹介を継続して行い、地域からの課題や心配事を共有できるよう取り組んでいく。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<p>地域の防災訓練への参加、事業所の避難訓練を実施する。災害時の利用者の避難先や避難方法も本人家族と共有する。</p>	<p>事業所の避難訓練は実施した。災害時の避難先や避難方法は居宅サービス計画書で確認し共有しているが、実際に活用できるまでには至っていない。 2024.1.1の能登半島地震で、避難所で過ごされた利用者もいた。事業所としては独居の方の安否確認を優先に行ったが、避難所で過ごすことが難しい利用者への安否確認も重要に感じた。身体的に避難所生活が難しい方や、認知症を患っていることで集団生活が難しい方への対応としてサービス利用も含め確認と対応をすべきだった。今後は事業所が被災した際の災害対策、利用者の住む地域や住まいが被災した際の対応をしっかりと行えるようにしていくべきである。</p>	<p>利用者の住む地域の避難情報を、本人・家族と共有することは重要である。民生児童委員が見られる情報の中でサービス状況が分かると良い。避難者の受け入れ状況もわかる仕組みがあると良い。</p>	<p>事業所の地域の防災訓練、事業所避難訓練の実施。 利用者の地域の防災を本人・家族と共有し、必要に応じて介護保険サービスの提供も含め迅速に対応する体制作りを行う。</p>